



ナラ枯れ被害跡地の植生回復状況調査

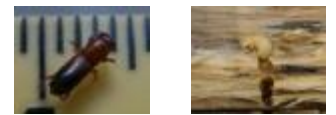
ナラ枯れ被害を受けて主要な木々が枯死してしまった森を、豊かな森林へと回復させていくために、被害跡地の植生状況を調査しています。

ナラ枯れとその原因

- ナラ枯れとは、森林の主要な樹木であるブナ科樹木（主にコナラ属）に発生する病気の通称です。
- ナラ枯れが発生した山は、木々が枯れてしまうので、夏場でも紅葉したような状態となってしまう。
- 原因は、カシノナガキクイムシという昆虫が運ぶ病原菌で
- 木に穴をあけて産卵する際に、病原菌が木に感染します。
- 木の中で増えた幼虫が羽化して拡散する際に病原菌を持ち出すことで、他の木にも被害が広がっていきます。



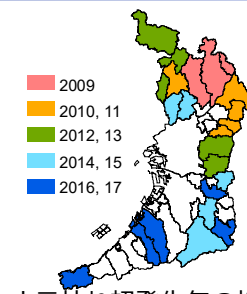
ナラ枯れした森の様子



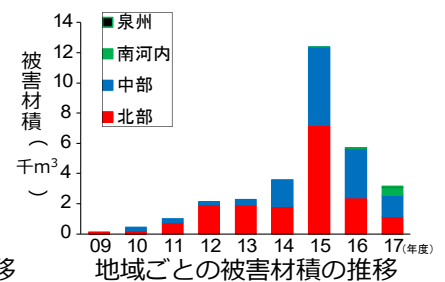
カシノナガキクイムシの成虫と幼虫

大阪府内での被害状況

- 2009年に高槻市で最初に発生が確認され、その後全域へと被害が拡大しつつあります。
- 一方で、発生のが早かった地域では被害がほぼ収束しており、被害跡地での植生回復や森づくりが課題となっています。



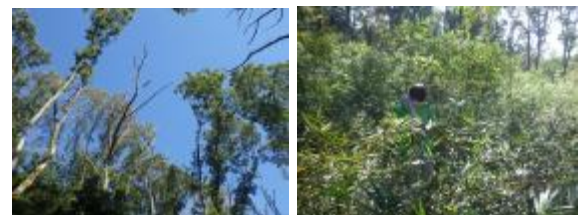
ナラ枯れ初発生年の推移



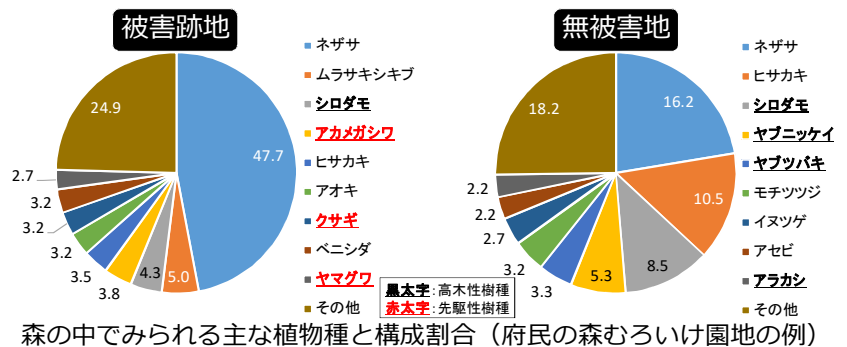
地域ごとの被害材積の推移

ナラ枯れ被害跡地の植生状況

- 生駒山地の「大阪府民の森」を対象に被害跡地の植生を調査した結果、ササ類（ネザサ）や明るい場所を好む先駆性の樹種が繁茂する藪のような状態になっていることが分かりました。
- 無被害地の森の中でみられる、高木へと成長するような樹種はほとんどみられませんでした。
- 森林植生をすばやく回復させるためには、繁茂するササ類などを取り除き、高木となる樹種の定着を促す必要があります。
- 目指す森の姿によっては、移植や植栽など、人の手助けによる森づくりを考える必要があります。



ナラ枯れ後に見られる空の隙間と、藪のような状況



森の中でみられる主な植物種と構成割合（府民の森むろいけ園地の例）